

島のむんがたり

「大人になる」こと

松の内の1月2日に開催される

「二十歳のつどい」。袴に着物など

晴れ着に身を包んだ二十歳のみな

さまが一堂に会し、島の1年のな

かで最も華やかな1日となるので

はないでしょうか。

ところで、昨年までは「成人式」という名称だったイベントが今年から変わりました。民法改正により約140年ぶりに「成年」の定義が見直されたことによります。すなわち、「大人になる」ということは時代により不变ではない、

元服を願い出た坊かなたちはその名前から島民（島役人の子弟か）と考えられますが、もともとは奈良・京都の貴族の儀式に由来する元服を受容していたことがうかがえます。しかし、それが後世に引き継がれた儀式であつたかは今後の課題です。

一気に昭和41年（1966）まで時をくだります。「德州新聞」によると、この年の徳之島町の成人式は法律で祝日と定められた1月15日に開催されました。メインイベントは、役場プラスバンドの

ということででしょう。

そこで、まずは約150年前の徳之島の事情を時の代官新納源左衛門の日記に探ります。

慶應三年（1867）8月28日のこととして、「坊かな松上弥戸（入名）のこと、元服を願い出てきたので退出したのち、元服させた」とあり、代官から百田紙、扇子、

お返しに、坊かなたちは豚・菓子入りの重箱・丼と吸い物を持参しています。伴奏による紅白のど自慢大会。興味深いのは晴れ着です。女性は「一人もれなく訪問着姿」、男性は「すべて上下揃いの背広姿」とあります。成人式を運営した役場職員は、

昨年（昭和40年）までは女性の訪問着と洋服は半々だったが、この年は全員が訪問着でうらやましい、とコメントしています。各年の成人式の様子をていねいに確認していく必要がありますが、晴れ着の変化が映し出されています。読者のみなさまが体験された成

人式はどのような様子だったでしょうか。

【町誌編さん室 竹原祐樹】



1992年徳之島町成人式



1993年徳之島町成人式

問
郷土資料館
☎ 09997-82-2908